

令和 6 年度 中央区立日本橋中学校 外部評価報告書

外部評価委員：高橋 道義、喜多 隆正、郷 金二郎、倉谷 通孝、中多 宏之
報告書作成者：石井 卓之

評価時期 令和 7 年 3 月

1 重点目標の評価

重点目標 1 について「確かな学力の定着と向上」

- ・生徒アンケート、保護者アンケートの肯定的評価がそれぞれ約 9 割、約 7 割を超えていることから目標は概ね達成できたと考える。また、教員の評価は 10 割であることから、学校としては努力をし、成果を上げたと捉えていることが分かる。
- ・保護者アンケートの「学習内容がわかりやすく工夫された授業をしているか」の肯定的評価は 73%と概ね良好であるが、わからないが 14.4%である。多忙等で生徒や学校の様子を把握できていないなど、要因を把握していく努力は必要だと考える。

重点目標 2 について「豊かな人間性を育成する」

- ・生徒アンケート、保護者アンケートの肯定的評価がそれぞれ約 8 割、約 7 割を超えていることから目標は概ね達成できたと考える。
- ・「生徒は多様な意見を受け止め、共感的な人間関係を築き、学校生活の様々な活動を展開しているか」について、保護者の肯定的な評価が約 90%と高い。総合的な結果ではあるが、学校は授業や特別活動などで、特に効果を上げたと考える内容について考察をしてほしい。
- ・「生徒は地域の行事やボランティア活動などに進んで参加しているか」について、保護者の肯定的な評価が約 15%増加したことは高く評価できる。しかし、生徒の改善を要する評価は 20%と高くなっている。これについては学校の考察には理由が書かれていないので、明記する必要がある。

重点目標 3 について「心身の健康と増進」

- ・生徒アンケート、保護者アンケートの肯定的評価が両方とも約 9 割となっていることから目標は達成できたと考える。
- ・評価項目 2 の「学校は自らの生き方や将来を考える機会を提供しているか」という設問は、「機会を提供する」と評価が上がる傾向があるか、重要なのは「提供してどのような力を育成するか」である。それを把握できる設問とすることを検討する余地がある。

2 今後の改善に向けた意見

- ・評価の回収率 80%を目指して、取り組みを進めたことは評価できる。一般的にデジタルによる回収率は落ちることが多く、対面によりその場で記入する方法と組み合わせることで回収率を上げている学校もある。
- ・評価内容によっては、3 者（保護者、生徒、教員）の全てを取る必要がない項目もあると考える。より実態を把握し改善に繋がる学校評価とすることも考える余地がある。

3 その他の意見

- ・令和 7 年 2 月中旬までに、各学年の学年だよりが 40 号発出されている。また、学校の H P で学校生活の様子をアップするなど、広報活動を通して学校の情報を積極的に発信していることは高く評価できる。
- ・学校教育の最重要課題である「不登校生徒」を減少させたことは、大きな成果である。学校評価の項目には現れていないが、手だてとその有効性を明確化して引き続き取り組んでいくことに期待したい。

外部評価委員：高橋 道義、喜多 隆正、郷 金二郎、倉谷 通孝、中多 宏之
報告書作成者：野口 敏朗

評価時期 令和7年 3月

1 重点目標の評価

重点目標1「確かな学力の定着と向上」

・落ち着いた学校生活を送っている生徒の様子は学校行事や周年行事等から見て取れ、感激した。また、評価指標にある「わかった」「できた」の実感の肯定的回答が91.8%に達していることから、生徒は学習に対する一定の達成感を得ていることは伺える。一方、2・3年生のサポートテストの前年度比較からはそれぞれ伸悩みの傾向が見られる。学習への達成感が高い現状を学習意欲の向上へと結び付けるための好機と捉え、学習内容の更なる工夫を求めたい。そのためにも個に応じたタブレット端末活用を推進とともに、生徒が確かな知識を基にしつつも、正解のないことに挑んだり、自分なりの疑問を立てたりするなどして、自らの考えを整理できる等の学習環境の改善を期待する。

重点目標2「豊かな人間性を育成する」

・前述の学校生活の落ち着きから、生徒は多様な意見を受け止め、共感的な人間関係を築いて、様々な学校生活を前向きに展開していることはアンケート結果からも伺える。一方、「学校の諸活動に対する貢献やボランティア活動への参加」については、教員と保護者は肯定的ではあるものの「肯定A」の数値は低い。「豊かな人間性」は学校のみで育成できるものではない。そのため、貢献（活動）している生徒の姿や、ボランティア活動等の具体的な参画方法などの提示の在り方、そのことで得られる生徒の力等を保護者・地域にも示すなどして、一体的・協働的な育成体制の構築を推し進めてほしい。

重点目標3「心身の健康と増進」

・運動や健康への興味・関心については総体としては高まっているものの、「肯定A」の数値が高いとは言えない。一般的に、現状の体育活動で、健康の維持・増進ができていたとの実感はなかなかもてない。しかしながら、成長期の適切な運動や身体的遊びは、大人になってからの身体活動や健康状態につながる（運動の持ち越し効果）ことは明らかである。したがって、これからも学校においては、各運動（スポーツ）そのものがもつ楽しさや喜びを得られる体育的活動の在り方を工夫した豊かな展開を期待したい。また、キャリア教育については、自らの生き方あり方を方向付ける価値ある教育であることを生徒は十分理解している。今後もより体験的で具体的な学習の場を工夫し、自らのキャリア設定への興味・関心を十分に高められたい

2 今後の改善に向けた意見

予測困難な時代を迎えている現状、本校の教育目標は的確に時代をとらえたものである。そのための具体的な生徒像を教職員、保護者・地域で共有し、その育成に努められたい。そもそも、すべての教育活動は「学校教育目標」に迫るものである。したがって、各重点目標も「学校教育目標」を強く意識して設定されたい。そのためにも重点目標の達成度を明確に把握できる評価項目・評価指標についてその関係性を明確に提示されたい。

3 その他の意見

校長の学校経営方針を踏まえ、教職員が協働し、有為な生徒の育成に励んでいることが拝察できる。地域の学校に対する理解度も高く、協力的であることから、地域人材の学校教育への参画のあり方についても、より具体化し、一層の協力を求めてもらいたい。